第２回八女市立図書館本館整備基本計画検討委員会議事録

日時　令和５年１０月２日（月）18：00～20：30
会場　八女市役所２階２０５会議室

１．委員長あいさつ

こんばんは。２、３日前から暑い夏が終わり、委員会も２回目になります。前回の委員会、その後のワークショップを受けて、今回はアンケートなどを見ながら、具体的な内容に踏み込むので、ぜひ皆さんからの忌憚ない意見をいただき、より良い図書館にしていきたいと思います。皆さん、よろしくお願いいたします。

２．議事

（１）前回の議題について

【資料１】前提条件の整理、現状と課題についての説明（委託業者）

＜委託業者＞

枠で囲っている部分が修正点です。６ページ、前回の委員会でご意見をいただきまして、地区別や年代別の利用状況を追加で調査いたしました。地区別の利用状況、貸出冊数は本館が一番多く、特徴的なのは、貸し出し密度で星野村が一番多い状況でした。移動図書館などで１度に数十～100 冊ほど借りられていることから、活発な利用が影響していると考えられます。

年代別の利用状況について、１０年間の推移を見たところ、４０代の利用は増加傾向で、特に乳幼児と６０代の利用は大変増加していました。反対に、高校生・大学生・２０代の利用が減少しており、元々利用の少ない世代に近年さらに減少がみられることが分かりました。

１０ページ、移動図書館の特徴を追加で見てみました。１ステーション当たりの利用人数について、１か所に利用者が多く集まる地区と少ない利用者で多くの拠点を回っている地区があり、特色がみられることが分かりました。

１２ページの表８では、地区全体の貸出冊数に対する移動図書館の貸出冊数の割合を算出しています。上陽地区、黒木地区では３０％以上、星野地区では４０％を移動図書館貸出が占めています。移動図書館が各地区の図書館の利用を向上させていることが分かりました。

１３ページ、表９を修正しています。前回は郷土資料の数が各分類に混ざっていましたが、実際に持っているものを別途集計し、９，９７９冊ある状況です。サービスにおいてはこういったところを活かしていくことが考えられます。

以上を踏まえ、２２～２３ページの課題部分について、６つの取組の方向がありましたので、それぞれの課題への取組の方向を付与しました。また、若い世代の利用が減少傾向にあること、利用を促す必要があることを追記させていただきました。

○質疑、意見については以下のとおり

＜委員長＞

星野の移動図書館の利用が多い理由をどう分析されますか？

＜委託業者＞
割とヘビーユーザーの方がいらっしゃることがデータに影響を与えていると考えます。

＜事務局＞
星野だけではないのですが、学校や保育園など利用者の多い場所を回っていることが結果に表れていると思います。

＜委員＞
星野は文化が高い人が多いことも影響していると思います。

（２）アンケートの結果について
【資料２】アンケートの調査結果の説明（委託業者）

＜委託業者＞
アンケートの回答数は１，４００と図書館関係のアンケートとしては驚異的な数が集まりました。特に１０代の回答数が９８０人で、八女市の１０代の人数の２０％と非常に多いので、各世代の傾向を比較分析しながらまとめています。
図書館の利用経験率について、１０代２０代は他の世代に比べて少ないことが顕著に表れています。その他で特筆したいのは図書館の利用理由です。３０代以上の方は本や DVD の貸出や返却を主な理由としていますが、１０代は図書館で読書をするため、２０代は勉強や仕事をするため、３０代に関しては子供と過ごすためなど、若年層を中心として居場所としての利用が目立っていると言えると思います。
１１ページ、利用拡大に向けてどんなことを充実してほしいかという設問では、全体を通じて Wi-Fi 環境と駐車場がほしいことがワークショップも通じて同じ傾向として見られました。
資料、本や雑誌、CD/DVD などの量が欲しいというのは当然としてありつつ、３０代は子育て世代なので子ども向けの絵本や紙芝居などが欲しいという声、１０代２０代は、閲覧室や勉強をするスペースが欲しいという声が多かったです。面白かった部分として、新刊書を要望する割合は、年代が上がるにつれて大きくなっていました。
くらしを豊かにする図書館を実現するためにどんな体験ができると良いと思いますか？という設問では、各世代共通で４０％以上の方がカフェスペースを挙げていました。
中高生の利用拡大のために、２０～５０代方は閲覧スペース、学習スペースを充実することが促進につながると考えていますが、１０代は中高生や若い人向けの本を増やしたり、友人と話したりグループ学習できる場所を増やしたりすることが促進につながると考える傾向が見られました。
電子図書館については、１０～２０代の利用経験が１０％を下回り、ニーズがありそうな世代への認知がされていないと言えると思います。
２１ページに簡単に考察を整理しています。図書館に対して、本の貸し借りという役割に加えて居場所としてのニーズや、駐車場や Wi-Fi やカフェの要望が大きくなっています。自分たちらしく、それぞれの世代ごとに過ごす場所としての要望が強いということが分かります。
以上から、「はぁー、ほっとする」が大きなテーマになると感じています。また、資料の量などの基本的なサービスの充実も当然重要ですので、「いや～、助かった」と合わせた２つが６つの方針の中で中心になるのではと考えています。

〇質疑、意見については以下のとおり

＜委員＞
みんなが会える場所を求めていると感じました。みんなのつながりができる図書館ができたら良いと思います。

＜委員＞
１０代２０代が気晴らしのためにくるというのは健全だと感じました。面白いものとの出会いが次につながります。

＜委員長＞
目的がなくても入れる、というのが図書館として理想だと思います。

＜委員＞
八女にはみんなで会えるところがないので、そういう関係を求めているのだと感じました。

＜委員＞
１０代２０代は、居場所としての需要が高い反面、滞在時間は少ないので、友達と勉強したり、ゆっくり読書ができたりする場所があれば利用が増えていくと思いました。

＜副委員長＞
集団もですが、一人で利用したいという人もいます。また、３０代の子育て世代のニーズが多いということなので、言葉を発していい、気兼ねなく子どもと話せるスペースと静かにするスペースと場所が分けてあると良いと思います。

＜委員＞
あまり溜まり場になっても困るので、規則はきちんとつくらないといけないと思います。

＜副委員長＞
若い人の利用が少ないですが、これからの八女市をつくっていく方達なので、若い人にとって居心地の良い場所が必要です。色々な要素はありますが、10 代 20 代が、ここに来てよかった、とほっとする時間を過ごせるのが良いと思います。

＜委員＞
中学校にアンケートを配布したのに、なぜ小学生には聞かないのかという質問を受けました。私もわからなかったので、勝手に私が携わっている子どもたち５０名くらいに意見を聞きましたが、１０歳未満で多かったのは居場所です。面白かったのは、自分の力で行けるようにしてほしいという意見が多かったことです。校区外で親の送迎やバスに乗らないといけない子もいます。

＜委託業者＞
ワークショップでも同じような意見がでており、図書館へのリーチも考えていく必要があると考え

ています。

（３）ワークショップについて

【資料３】ワークショップの実施報告の説明（委託業者）

＜委託業者＞

非常に満足度の高いワークショップになったと思っています。下は小学生、上は７０代くらいまで幅広い世代にご参加いただき、取組の方向ごとに各年代バランス良くグループを分け、全員が自分の関心のあるテーマについて話したり、多くアイデアを出せたりできるように心がけました。

「図書館の話をしっかりしたい」という方からは、前振りが長いというご意見もいただいたのですが、今回の狙いは幅広い世代の人からアイデアをもらうことでしたので、たくさんの前向きなご意見をいただけて良かったです。

具体的な結果は参考資料３にまとめていますが、２４６のアイデアがでました。このアイデアやアンケート内容を取組の方針で整理し、サービスの中分類をつくり、具体的な内容を考えていきます。

〇質疑、意見については以下のとおり

＜委員＞

次回の計画はありますか。参加された皆さん、とても楽しかったそうなので次回もぜひ検討してほしいです。

＜委託業者＞

市民の意見を聞くことは重視していきたいので、次の段階での実施については検討していきます。

（４）図書館コンセプト（案）について

【資料４】八女市立図書館本館整備基本計画策定図書館コンセプト（案）の説明（委託業者）

〇質疑、意見については以下のとおり

＜委員＞

また八女茶と思ってしまいました。たまには八女茶から外れてもいいのではと思うくらい、八女は八女茶なんですよ。ほっとするというのも、八女茶じゃない方がほっとすると個人的には思ってしまいました。

＜委員＞

私は八女といえばお茶だと思っておりまして、八女茶山唄という民謡があって「茶山茶どころ　縁どころ」という歌詞がありますが、お茶は人と人のご縁を結ぶ縁起の良いものです。そんな図書館ができれば良いと思いました。

＜副委員長＞

私もとてもいいなと思いました。どなたかがいらっしゃったら、お茶をお出ししておもてなしする、

ということを義理の母から教わりました。この最後の図の循環がとても良いと思います。

＜委員＞
　私も八女茶か、と思いました。八女に何があるかと聞かれると、八女茶ととりあえず言うので、もっと他に何かないかなとは思いました。

＜委員＞
　私は八女の人間ではありません。外の人間からすると、八女茶は美味しいんですよね。以前映画の撮影で東京から５０名ほどいらした時に、お茶でおもてなしをしたらとても感激してくれました。緑茶って本当に緑なんだとおっしゃっていたことが印象に残っています。ＪＡＸＡの講演会の時も八女の緑茶をとても褒めてくださいました。人工衛星から八女茶の葉が１枚１枚見えるそうです。ＩＳＳからみたら一番だと言ってくださいました。私は八女茶で良いと思います。

＜委員＞
　八女らしさにこだわらなくても、日常も街並みも、日々営んでいる表情が八女らしさになるのだから、八女らしさを打ち出さなくても良いのではと思いました。地元の人からすると、お茶はもっと複雑です。方向性はいいので、お茶の持つ複雑みや日常を感じ取れるような深みのあるコンセプトだと良いと思いました。

＜委託業者＞
　賛否が分かれたのは良いことだと思いました。「図書館でつくるべき体験機会」として何か新しいものに触れた時の好奇心やモチベーション、むくむくと出てくるものを「新芽」と呼び、八女を代表する「八女茶」と掛け合わせました。八女だから八女茶だよね、といきなり言ったわけではない、というところは補足させてください。

＜委員＞
　八女茶はもともと中国から来ていて、農家さんたちが色々な地域と交流して頑張っていらっしゃるので、他の地域との交流も意識の中に入っていた方が、八女らしさにつながっていくと思いました。

＜委員＞
　八女茶は共通認識として非常に効果的だと思いました。このサイクルもとても可愛くデザインされていて良いと思いますが、摘み取るところが一般的には「芽を摘む」、ダメにするという印象があるので、言い換えができないかなと思いました。
　また、茶葉が出るのも根っこがあってのことです。今のコンセプトは利用者の体験機会を重視していると思いますが、八女の文化や産業の根っこである、長い歴史や先人の皆さんのことも意識できたらと思います。日々の活動、サイクルが根っこも育てていくだろうと思います。

＜委員＞
　「八女茶」というよりも「新芽」をコンセプトと捉え、意見したいと思います。新芽はすごく良いと思いました。私は生まれてから八女で過ごして、にぎやかでたくさん施設のあった町が、これがつぶれ、あれがなくなり、閉じてきているイメージがあります。文化を大事にしながらも、魅力がしぼんできたという実感を持っています。先日、福島の燈籠人形というお祭りがあったのですが、昔は通

るスペースがないくらい人がわんさかいたのに、だんだん減ってきたと思っていました。そんな時に、この「新芽のように」を聞いて、何か始まりそうな、わくわくするイメージを持ちましたので、大賛成です。

＜委員長＞
　大事なことなので、この場で決めるのではなく、今後も議論していって良いでしょうか。

＜委託業者＞
　次回検討委員会に向けて調整していきたいと思います。

（５）図書館本館サービス構想について
　【資料５】八女市立図書館サービス構想について
　【資料６】これからの図書館アイデア の説明（委託業者）

　○質疑、意見については以下のとおり

＜委員＞
　バリアフリーは「いや～、助かった」に入れてはいけないと思います。「はぁー、ほっとする」ではないでしょうか？

＜委託業者＞
　そのようにします。では、ここまでの話をベースに６つの方針それぞれについて話をしていきます。「はぁー、ほっとする」と「いや～、助かった」の重心が大きいのでここを大事にしたいと思い、最初に書いています。

「はぁー、ほっとする!」
＜委託業者＞
　論点としては、目的別の場所の切り分け、カフェや飲食スペースの実現性、居場所と本の関係性の整理についての３つがあります。

＜委員＞
　カフェの規模感があまり大きくないですよね。商売はしていないけれどカフェをやってみたいという人がやりたいことを実現できるような簡単な厨房やものが売れる場所であれば、地元の人が手作りのものを出せる、自然で素朴な八女らしさが実現できるのではないかと思います。

＜副委員長＞
　本が嫌いな人もいるので、あえて本がない空間もあっても良いと思いました。

＜委員＞
　子どもと今一緒に行っていて、ほっとする空間がないと感じています。声が出せる子どもの場所があるといいなと思いました。

＜委員＞
　車いすは結構スペースを必要とします。ソファがあった方が良いこともあるし、カウンターになっていて、車いすが入れるところがあったらいいなと思います。

＜委員＞
　図書館にはあまり行ったことがなかったので、夏休みに武雄の図書館を見学に行きました。自分が若いころに、ロッテリアに溜まっていたように、若い年代が来るきっかけがあったらいいなと思います。武雄にはきちんとした飲食のスペースがあったり、高い書庫があって「取りたいときは言ってね」と書いてあり、ちょうど良い感じの図書館だと思いました。
　もうひとつ驚いたのは、子供用のスペースが別棟にあることです。走ったり動いたりということの実現と、静かに本の世界に親しみたいという要望の両立を考えてできたのだと思います。
　音の同居ができる空間が良いと思います。学校は構造が一つの箱なので、同居しようがないジレンマをもって日々生活しています。どうしても本を読んでいる子を優先して図書館は静かに、となってしまわざるを得ないので、音はとても大事だなと思っているところです。

＜委員＞
　八女市の小中学校はすべて給茶機があり、誰でも自由に美味しいお茶を飲むことができます。予算上できるかわかりませんが、百円でも良いので図書館で八女茶が飲めると良いと思います。外から来た方にとっても「どこで八女茶が飲めますか？」と聞かれることがよくあるので、図書館が情報発信の場として市外の人も集まる場所になると良いと思います。

＜委員＞
　あらゆる居場所に本がなくても良いのでは、と私も思いました。本がなくても憩えるような、世代別でゆったりできるような、癒しの場所になれば良いと思いました。

＜委託業者＞
　どう実現していくのかは考えていく必要がありますが、目的別に区切るのはありそうですね。

＜委員＞
　区切りと言いましたが、断絶は嫌なので、融和を基にして良い方法があればと思っています。

＜委員＞
　子ども用のスペースは別棟が良いという話について、県立図書館は断絶になっているかもしれませんが、菊池市の中央図書館はガラス張りの仕切りになっていて、音はそんなに漏れてこない工夫がしてあります。熱中症対策で蓋のついた飲み物であれば持ち込み可能であるところが多いです。食べ物はさすがにカフェスペースでないといけないとは思いますが、お茶をもって移動できるというのは癒しの一助になると思います。

＜委員＞
　空間的な話で言うと、外の風景との関係性も大事だと思いました。今の図書館はガラスが東側と北側にあるが、あまり気持ちのいい風景ではないと思っています。一方で南側をガラスにすると景色はきれいだけれども、暑くなるので電気代がかかる、などもあると思います。今日みたいな天気の日は、

日陰の外にベンチを出して本を読んだら最高ですよね。建物の中だけでなく外も含めて検討していただけたらと思いました。

＜委託業者＞
　過ごし方や居場所のあり方を、スイッチで切り替えるのではなく、じわじわ変わっていくような、そういうイメージをもって空間をつくっていけると良いと思います。
　カフェのレベルはいくつか選択肢があると思います。いくつかを比較した上で、今回にマッチしたものが何かを検討していくのが、次のステップだと思います。

「いや～、たすかった」
＜委託業者＞
　基本的、全域的なサービスがベースとなります。特に２つめの駐車スペースというのはあらゆるところで出ていた意見なので、充実させることは必須だと思います。
　論点として、レファレンス、専門書について、開館時間の延長、交通手段の充実や移動図書館、本館・分館との役割分担、託児サービスなどがあります。特に司書の方から意見の多かった宅配サービスについてどうするのかなど、この辺についてご意見をいただければと思います。

＜委員＞
　託児サービスは月に１回くらい利用していますが、一人で本を読める時間があれば、「はぁー、ほっとする」につながると思いました。うちの子供もですが、バスが好きな子は多いので、バスに乗って図書館に行くという楽しみを加えたものだと良いです。

＜副委員長＞
　レファレンスサービスの強化というのは、利用者側なのか、司書が利用者に対して回答する方なのか、どちらでしょうか？

＜委託業者＞
　後者だと思います。

＜副委員長＞
　後者だとすると、司書がどれだけ勉強をしてどれだけ資料を知っているかになりますので、司書の資質の強化になると思います。

＜委託業者＞
　司書の資質ももちろんですが、レファレンスサービスが、市民の方からの認知度が低いこともあります。スキルを上げるだけではなく、空間的にレファレンスが分かりやすいなどの課題もあると思います。

「へぇ～、そうなんだ!」
＜委託業者＞
　本の世界観を感じられるような何かをしてほしい、という意見がありました。また、宇宙というテーマはいろんな方がワークショップなどでも挙げていました。

＜委員＞
　宇宙は多分ＪＡＸＡのことを言っていると思います。宇宙少年団という子どもたちにＪＡＸＡの知識を教える機関が八女市にもあって、毎月イベントをしています。八女には星の文化館もあり、意外とＪＡＸＡとのつながりを意識している保護者、子どもが多いと思います。

＜委員＞
　図書館から情報発信をするよりも、色々な人が集まって、詳しい人が知りたい人に教えるということができたら「へぇ～、そうなんだ」につながると思います。八女市内外にアンテナを張り、きちんとつなげられる人、マネジメントが必要だと思います。それは司書の仕事ではない気がします。

「どうも、ありがとう!」
＜委託業者＞
　どういう風に市民参加の機会、場をつくっていくか。仕組みをつくるかを考えていきたいと思います。マネジメントにおいては何が大事か、運営も含めて考えていく必要があります。

＜委員＞
　レファレンスサービスの強化と合わせて、市民がプレイヤーに回れることがあると、市民も一緒にやっていけると思います。

＜委員長＞
　公民館という話もありましたが、ボランティア活動の場を図書館につくり、その方たちが活動できるというのはどうでしょうか。例えば公民館で企画して、それを図書館でつなげるなど。まさに生涯学習のマネジメントですよね。

＜委員＞
　司書のやることが多岐にわたってくると、司書の数を増やさないといけなくなります。昔はボランティアもたくさんいたが、最近は減っています。どんなサークルがあるかもわからないし、どんなボランティアがあるのかを図書館で紹介してほしいと思いました。

「なんか、面白そう!」
＜委託業者＞
　子どもに向けた話と情報発信や話題化の観点についてお話を聞ければと思いますが、いかがでしょうか。

＜委員＞
　色々活動していて思うのは、面白そうな活動には自然と人が集まるということです。時間や場所を消費するのではなく、みんなでその場をつくるということが大事だと感じました。図書館が一方的にサービスを提供するのではなく、何かを実現したい、面白いことやりたい人がやれる環境を整え、情報を発信する。そんなサポートができれば、色んなことが展開していき、世代男女関係なく人が集まりそうな気がしました。

＜委員＞
　柳川市に夜カフェがあるのですが、そこには障がい者も誰かと群れたい人も集まっています。情報がＳＮＳで流れてきたら行こうと思うので、情報発信も図書館でできたら良いと思います。

＜副委員長＞
　大学図書館はＳＮＳをやっているところもありますが、司書の方のご負担がかかるので、役割を決めてやるのが良いと思います。

＜委員長＞
　図書館サービスの中でコミュニティサービスというのがあります。コミュニティの情報を図書館のサイトに載せるというのはどうでしょうか。図書館はメディアである、というのは私の考えですが、何かに入ることを仲介する、つなげる入り口が図書館になっていくべきだろうと思います。自分たちがどこまでやるかは置いておいて、情報を整理してつなぎ、発信をするのは図書館のありようとして位置付けるべきだと思います。

「まちの記録」
＜委員長＞
　ワークスペースはものをつくるスペースのことですか？

＜委託業者＞
　色々なことを含めています。ファブ的なものもあるし、色々やれる場所、自主的につくれる場所、色々な意味を含めてのものづくりスペースです。

＜委員＞
　ハード面なのかなと思ったら、中にいる組織、どういう人が活動するのかとか、混乱してきました。例えば情報発信とか、話題につながる施策の在り方とか、だれがやるのとか。創作活動とかはどうなりますか？

＜委託業者＞
　絞っていく観点というのもまだまだたくさんあると思うのですが、どういう角度で考えられるかだと思っています。

＜委員長＞
　創作活動というと、３Ｄプリンターを置いているところもあるし、個人的にタウン誌を作って編集しているような図書館もあります。必ずしも指導しなくても、施設としてどこまで整備するかというところで良いのではないかと思います。

＜委託業者＞
　全体を通して、実現性なども考慮しながらもう少し絞ったかたちで出すことになると思います。

＜委員長＞
　図書館は情報発信であると同時に、きちんと蓄積されて記録を残すというところ。そこまであって

図書館だと思います。組織的にマネジメントしていかないと。今を記録していく、その役割をちゃんと考えていく必要があると思います。

＜委員＞
　ここに集ういろんな人が、片方がありがとうというのではなく、お互いに提供したりされたりする、そういう場所になっていくといろんなことが生まれてきそうだなと思いました。

（6）その他
　事務局から第３回の委員会については１１月６日（月）で提案。
　日程が近づいたら文書で案内予定。

閉会